



やさしさあふれる修学旅行～6年生全員で行ってきました～

9月19日（火）～20日（水）、6年生が長崎に修学旅行に行ってきました。

「インフルエンザ等の感染ピークか？」などのニュースも聞こえてくる中、6年生全員で行って、6年生全員で帰ってきました。

1日目の平和学習は、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館での平和集会から始まりました。一人一人が言葉の意味を理解し、大きな声で呼びかけ、そして、歌いました。祈念館の山口さんが「御船小の6年生が、平和のことを真剣に考えていることが伝わりました。」とおっしゃっていました。わたしも子供たちの表情を見て、歌声を聞いて、涙が出そうになりました。



次に、被爆体験を持つ語り部の八木道子さんの講話でした。1時間という時間が短く感じられました。原爆が投下される前の様子、そして、後の様子を、当時の子供目線で話してくださいました。子供たちにとって大変分かりやすいお話でした。最後に、「平和のバトンをつなぐ」と言って、お礼の言葉を述べた二人と固く握手を交わされました。



そして、原爆資料館の見学、長崎さるくガイドの方々の案内で原爆遺構のフィールドワーク。子供たちはみんな、一生懸命にメモを取りながら参加していました。



1日目の終わりに、ハウステンボス近くのホテルに移動しました。ホテルでは、他のお客様に迷惑をお掛けすることなく、大いに楽しんでいました。

2日目のスタートは、お土産を買うことから始まりました。お小遣いは、5000円。その中で、計算しながら、買い物をしていました。



そして、いよいよハウステンボスです。班別行動です。班のみんなのリクエストを聞きながら、アトラクションやレストランを選びました。3階建てのメリーゴーランドに何回も乗る子供たちもいました。全員時間内に、集合場所にたどり着きました。

校長の独り言

「やさしい人になる。みんなのやさしい姿をたくさん見せてほしい。やさしい姿を学校だよりで取り上げたい。」出発式でこう話しました。2日間を通して、子供たちのやさしさがあふれる修学旅行でした。6年生のことが、さらに大好きになりました。

インタビュー「旅行中、やさしいなと思った場面は？」

修学旅行中、6年生にインタビューしました。「やさしいなと思った場面は？」

- フィールドワークで、きつくて、班のみんなから遅れそうになったとき、待っていてくれた。
- フィールドワークで、水筒の水を全部飲んでしまったとき、「ぼくのやろうか？」と、自分の水筒の水もあと少ししかないのに言ってくれた。
- ハウステンボスでアイスクリームを食べたかった。でも、そのお店は遠いところにあった。でも、班のみんなは、「いいよ。みんなで行こう。」と言ってくれた。みんなでおいしいアイスクリームを食べた。
- ハウステンボスのアトラクションのゲームでクリアできなかったとき、「もう少しだったね。おしかったね。」と言ってくれた。
- ハウステンボスで、乗りたいアトラクションがあったけど、遠くて場所が分からなかったとき、班長が地図を見ながらみんなを連れて行ってくれた。



就学時健診終わる～来年の春、楽しみに待ってまあす！！～

9月22日（金）、来年度入学予定の66名の子供たちの就学時健診がありました。

就学時健診とは、御船町教育委員会が、本校に入学予定の子供たちに対して、健康診断を行い、心身の健康状態を把握するために行うよう、学校保健安全法という法律に基づいて行われます。

今回、内科健診や歯科検診は、保護者の方々と一緒に受けました。視力検査、聴力検査、面接は、5年生の子供たちと一緒にでした。もちろん、保護者の方と一緒に受けても構いません。安心してください。

来年度入学予定の子供たち、大きな声で挨拶ができて、お話を聞くことができる子供たちでした。来年の春、入学式で会えることを楽しみにしています。

一方、来年度入学予定の子供たちと一緒に検査会場を回ってくれたり、待ち時間に絵本の読み聞かせをしてくれた5年生のみなさん、ありがとうございました。5年生のみなさんが、小さい子どもたちのお世話をしている様子を見て、5年前は、こんなに小さかったんだろうなあと思いました。

今日の就学時健診、きっと「御船小でよかった」「御船小が大好き」と思ってもらえる最初に一步になったことと思います。

